

第1回 江山地区義務教育学校設立準備委員会（江山の宝応援部会）概要について

1 日 時 平成30年9月11日（火） 19時 ～ 20時40分

2 会 場 大和地区公民館

3 出席者 【委員】

江山の宝応援部会員7名

【教育委員会事務局（教育総務課）】

職員1名

4 議 事

(1) 今後のスケジュールについて

- ・本日は、地域住民・保護者への具体的な情報提供の方法について議論する。
- ・次回は、準備委員会が発行する便りの原稿確認のほか、通学方法についても現状を確認しながら検討を進めていく。
- ・通学方法の検討の際には、学校の生活時程も関係してくると思う。
- ・バスの停留スペースなども考慮して検討する必要がある。
- ・義務教育学校になったらランドセルはどうなるかといった保護者からの問い合わせもあるので、学用品の検討は早めに行うべきである。
- ・閉校に向けての事業については、概要は準備委員会で決定するにしても、実施の有無や、事業の細かい内容は各学校において判断して実施するものとする。
- ・コミュニティスクールの検討は、「すごい！学校創造部会」にも関係すると思う。
- ・神戸小と美和小が一緒になることから、放課後児童クラブの組織づくりの検討も必要ではないか。

(2) めざす子ども像と小中一貫教育ビジョンについて

- ・現在の江山校区の小中学校のめざす子ども像と小中一貫教育ビジョンを確認しながら、「伸ばしていきたいところ」「力をつけさせたいところ」「こんな教育をしてほしい」といったことについて意見を出し合った。（別紙のとおり）
- ・9月25日の全体の委員会の中で、部会での意見を部会長が報告する。

(3) 地域住民・保護者への情報提供について

- ・当面は、便りとHPを通じて、準備委員会の検討状況等について周知を図る。
- ・便りは、A4・1枚ものを1～2か月に1回、公民館便りと一緒に全戸配布する。
- ・便りの作成方法は、「部会の前に大和公民館長が準備委員会の決定事項を中心に原案を作成→部会で原案の校正→設立準備委員会に諮る→全戸配布」というサイクルで実施する。
- ・スケジュール的に設立準備委員会に諮ることができない場合の取扱いについて、9月25日の会に諮る。
- ・便りの名称は、部会の各委員で持ち帰り検討し、9月25日の会に諮る。
- ・設立準備委員会が立ち上がったことについて地域住民に周知するため、事務局が文面案を作成し、委員長了解のもと9月下旬に公民館を通じて全戸配布する。
- ・HPの情報提供は江山中学校と市教委で行うこととする。

5 その他

- ・副部会長に神戸小学校教頭を選出。
- ・次回の部会を、10月16日（火）19：00～20：30 大和地区公民館で開催。

【江山の子のこんなところを伸ばしたい】

- ・ふるさとというのは、義務教育学校になっても大事にしてほしい。
- ・少人数教育の良さを生かしていただきたい。
- ・神戸と美和のそれぞれの良さがあると思うので、それを引き継いでいただきたい。

【江山の子にこんな力をつけてやりたい】

- ・子どもたちがあいさつをするためには、まずは、家庭からしっかりと見本となるような形にしていけたらと思う。
- ・9年生がしっかりとあいさつをすれば、それを見た下級生も見習って頑張ってもらえるのではないかな。
- ・子どもが失敗を恐れて自信がないのではないかと感じることもある。話を聞くと、恥ずかしいということもあるようだ。これから社会に出ていくにあたっては、失敗を恐れずに色々なことに立ち向かっていく姿を学校生活の中で友達と一緒に乗り越えていける力を学校生活の中でつけていってほしい。
- ・向上心を持った子どもに育ててほしい。
- ・自分の思いを伝えようということが、よく研究テーマに挙がることもあるが、話し合える子に育てたいと思う。たとえ自分の考えや意見がなかったとしても、人と話ができるような子に育てたい。

【江山の子にこんな教育をしてやりたい】

- ・学校は集団生活の場であるので、誰もが居心地の良い、居場所のある学校であるべきではないか。そのためには、生徒同士の思いやりが基盤として必要だと思う。特色というよりも、そういった基盤を学校風土として根差すような学校でありたいと思う。
- ・集団という言葉を見ると、始まりは保育園だと思う。集団で過ごした後に帰るところは、家庭である。そういったことから、保護者支援ということも必要である。
- ・コンピューターが子どもの習熟度を判断して、個別学習ができるようになるようなことを聞いた。これからICTを使った教育モデル校などがスタートしていくわけだが、横一列ではなく自分に合った学習ができる機会があればいいと思う。
- ・大人数の前で発表できるような場面をつくっていただきたい。
- ・9か年をどう見取って教育していくのかということが非常に大きいと思う。上学年が化学年にモデルを示し、その姿を引き継いでいくということが、義務教育学校にとって大きな目的であると思う。例えば、砂見太鼓を6年生が指導していく、またそれを次の6年生が引き継いでいくというようなロールモデルになっていくというシステムを大事にしていけるといいと思う。
- ・学校が統合するということは、地域も一つになると思う。どういう意識で一つの方向に向かうのか、学校と地域と保護者が考えていかないといけないと思う。
- ・美和小学校のめざす子ども像の中に「早寝早起き朝ごはん」という言葉があったり、午前5時間制に取り組んでいたりするが、それが定着してきて学校を欠席する子も少なくなっている。学校と地域と家庭で連携・協働ということもあるが、家庭の役割もとても重要であると思うので、その取組も前面に出していってもいいのではないかな。